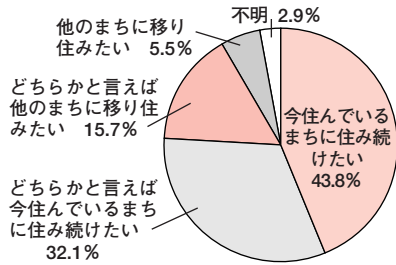


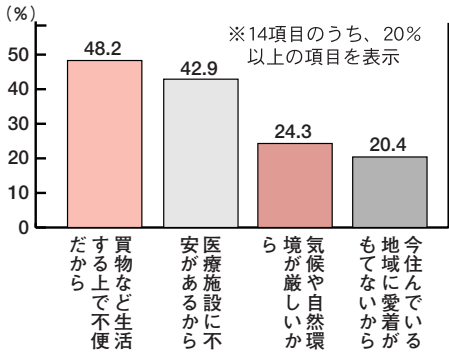
住民意向調査結果

定住移住の意向

「どちらかと言えば」も含め、今住んでいるまちに住み続けたいが75.9%



他のまちに移り住みたいとする主な理由は「買物など生活する上で不便」と「医療施設の不安」がそれぞれ40%以上



これからの地域や行政のあり方について議論を



札幌市 壮警町 山中 町長

市や町が合併する場合、人口や面積など、さまざまな差がありますが、その部分をどのように取り扱い、解消していくのか、あるいは産業構造のように、どのようにそれぞれの役割を決め、発展させる仕組みや方向性を決めるのかなど、将来像をしっかりと議論していくことが大事だと思います。

財政が厳しいから合併せざるを得ないという議論では、住民の理解は得られません。合併というのは、行政の究極のリスクだと言われていますが、効率化ばかりでは話し自体がゆがんで、財政議論一辺倒に陥りやすくなります。すべてが今までのように行政が行うという時代ではないため、行政の役割をどう見直していくか、合併を含めて議論をしていかなければなりません。

今までの市町村合併の議論では、どうしても財政の事情とか、人口の減少、あるいは少子高齢化時代ということが強調されてしまい、地域をこれからどうやってつくっていくのか、あるいは行政の役割をどうしていくのかじっくり議論する時間がありませんでした。

合併の話の前に、何か共同で実績を上げていくような取り組みが必要ではないでしょうか。まさにそういう意味では、広域連合の取り組みが大事だと思います。

特色ある地域として

光を放つようなまちづくりを



豊浦町 工藤 町長

産業を切り口に話をする、西胆振は室蘭市の工業地域から豊浦町の第一次産業、それから観光とそれぞれのまちが個性を持ったまちづくりを進めています。

将来合併したとしても、産業は合併するわけではないため、特色を持った地域として、合併した地域の中で生き残っていくように、産業の振興に努めていく必要があります。豊浦町は第一次産業のまちとして、養豚やイチゴ生産、ホタテの養殖など、足腰の強い農業漁業を一生懸命振興しているところです。それなくして豊浦町の生き残りはないと思っています。

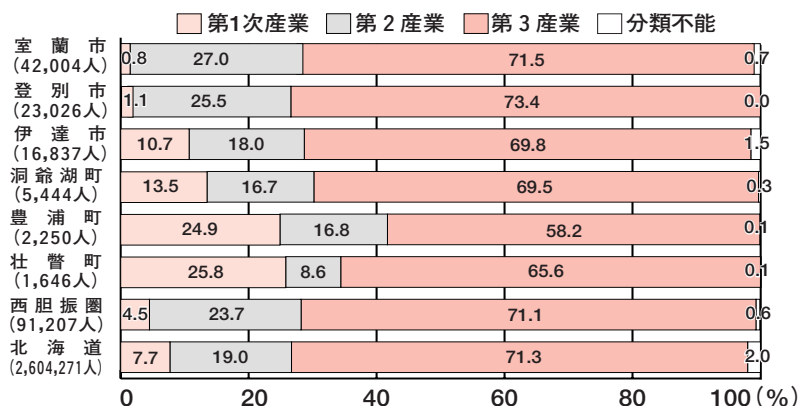
合併したとしても、その中で特色ある地域として、光を放つようなまちづくりをしていきたいと思っています。

◎産業別人口と構成比

◎各市町の医師の人数

都市名	人口1,000人当たり(人)
室蘭市	3.09
登別市	1.25
伊達市	1.97
洞爺湖町	2.03
豊浦町	0.78
壮警町	3.24
西胆振圏	2.36

(北海道調 平成16年末現在)



※ ( ) 内は就業者数 (平成17年国勢調査)